

戦雲式

映画文学人生論

0261) 肉弾 櫻井忠温 参考：敵中横断三百里 山中峯太郎
0271) 神聖喜劇 大西巨人 参考：真空地帯 野間宏
0281) 土と兵隊 火野葦平 参考：野火 大岡昇平
0291) 旅愁 横光利一 参考：細雪 谷崎潤一郎
030)1 十二月八日 太宰治 参考：墨東綺譚 永井荷風

金持ちが戦争を起こし、貧乏人が死ぬ

戦雲篇としてさらに五人の作品を追加し、戦争文学として読んだ。

敵中横断三百里	山中峯太郎
真空地帯	野間宏
野火 俘虜記	レイテ戦記 大岡昇平
細雪	谷崎潤一郎
墨東綺譚	永井荷風
肉弾	櫻井忠温
神聖喜劇	大西巨人
土と兵隊	麦と兵隊 花と兵隊 火野葦平
旅愁 上海	横光利一
十二月八日	太宰治

このうちあきらかに戦意昂揚文学と思われるのは『肉弾』と『敵中横断三百里』。作者の櫻井忠温と山中峯太郎は職業軍人だった。当然のことながらこの二人は戦争で勝つために軍人の義務をはたすこと、それが正義だと確信していた。

その他八人の作家の作品には単純な戦意昂揚文学の作品はない。八人のうち召集されて、軍人になったのは野間宏、大岡昇平、大西巨人、火野葦平の四人である。

その他、太宰治と横光利一も文士徴用令を受けたが、太宰は検査で胸部疾患のため即日徴用解除となり、横光は徴用を辞退した。逃避文学者の永



戦雲式

映画文学人生論

井荷風と谷崎潤一郎は何も期待されず、軍部からお呼びがかかっていない。

召集された文学者のうち野間宏、大岡昇平、大西巨人の三人は反戦思想を抱いていたが、作家として脚光を浴びたのは戦後である。『真空地帯』はベストセラーになり、『野火』と『神聖喜劇』もよく売れた。

一方、戦前のベストセラーは火野葦平の『麦と兵隊』など兵隊三部作。戦後はその反動で、火野は「戦犯作家」として戦争責任を追及され、公職追放処分を受けた。しかし、火野葦平も労働組合の活動に熱中しすぎて検挙され、転向した経歴がある。『花と兵隊』には中国人の娘が抗日反戦歌をうたう場面も描かれている。

また、横光利一は愛国者と称していたので、戦犯として批判されたが、『上海』や『旅愁』が戦意昂揚を目的とした文学でないことは読めばわかる。ただし、新感覚派の横光の文章は難解で、一般読者向けではない。

その点、太宰治の『十二月八日』は主婦が書いた日記という形式で読みやすい。百年後の貧しい日本の主婦にも読まれそうな文章だ。

「金持が戦争を起こし、貧乏人が死ぬ」と言っただのは実存主義者のサルトルだが、文学者は実存的に貧乏人の側に身をおいたほうがよさそうだ。

戦争が廊下の奥に立つてゐた 渡辺白泉